

(2) 河川軸

景観づくりの基本方針

水と緑の空間と、背後のまちなみや山並み等に映えるよう、対岸等からの見え方やスカイライン等に配慮すると共に、川に沿ってみどりの帯を広げ、自然を感じる生き生きとした景観づくりを行う。

川と関わりの深い周辺の歴史文化遺産等との調和やつながりを意識するなど川との関係を活かした景観づくりを行う。

○淀川等沿岸区域

【平成20年10月1日～】

区域の範囲：淀川及び桂川の河川区域及び当該河川区域に沿った区域

（河川区域の端から500m幅の区域を合わせた区域を基本とする。ただし、区域の境界付近においては、河川区域の端から500m付近の幹線道路、鉄道等を境界の目安として定めた境界とする。）



区域の概要：淀川は、ゆったりと流れる雄大な川面と、それを包む緑の帯が大阪平野に広がり、人々に自然の潤いを感じさせます。この大きな淀川に映えるように、郊外の整った住宅を中心とする家並み、歴史を感じる集落や田園風景、遙かな北摂や生駒の山並みなどがつくる雄大な景観が特徴的です。

景観づくりの目標：『自然のうらおいが感じられる、豊かな水と緑がつくる淀川の広大なオープンスペースと、それに映える美しいまちなみと山並みが織りなす雄大な景観を守り、育てる。』

○大和川沿岸区域

【平成22年11月1日～】

区域の範囲：大和川及び当該河川区域に沿った区域

（河川区域の端から500m幅の区域を合わせた区域を基本とする。ただし、区域の境界付近においては、河川区域の端から500m付近の幹線道路、鉄道等を境界の目安として定めた境界とする。）



区域の概要：大和川は、ゆったりと流れる川面と緑の帯が大阪平野に広がり、人々に自然の潤いを感じさせます。この大きな大和川に映えるように、富田林丘陵などの整った住宅を中心とするまちなみ、歴史を感じる集落や田園風景、遙かな生駒、金剛の山並みなどがつくる広がりのある景観が特徴的です。

景観づくりの目標：『自然のうらおいが感じられる、水と緑がつくる大和川のオープンスペースと、それに映える丘陵部等の美しいまちなみと遙かな山並みが織りなす広がりのある景観を守り、育てる。』

○石川沿岸区域

【平成22年11月1日～】

区域の範囲：柏原市域の大和川との合流地点から富田林市域の高橋までの石川及び当該河川区域に沿った区域

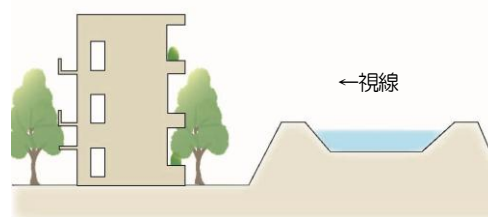
（河川区域の端から500m幅の区域を合わせた区域を基本とする。ただし、区域の境界付近においては、河川区域の端から500m付近の幹線道路、鉄道等を境界の目安として定めた境界とする。）



区域の概要：石川は、ゆったりと流れる川面と緑の帯が南河内地域を南北に貫き、人々に自然の潤いを感じさせます。この石川と石川から見上げる住宅を中心とするまちなみ、歴史を感じる集落や田園風景、金剛、和泉葛城の山並みや富田林丘陵などが一体となった景観が特徴的です。

景観づくりの目標：『自然のうらおいが感じられる、水と緑がつくる石川と、石川から見上げる美しいまちなみや田園風景と山並みが一体となった景観を守り、育てる。』

河川からの視点を意識し、建物は圧迫感を感じさせないような**形状**、周辺や背景となる山になじむ**色彩**とする



川沿いの建物は堤防からの視線を意識し、**河川側にも顔を向ける**など水辺に配慮した意匠とする

川沿いは河川とともに潤いを感じる緑の帯となるよう、**緑化**に努める

